

ミニトマト品種「ミニキャロル」の特性

農業研究センター 天草農業研究所 / 農産園芸研究所 野菜栽培・特産部

研究のねらい

ミニトマトの栽培は、食の多様化が進行する中で、収益性が普通トマトより高いこともあり、年々増加の傾向にある。このため、ミニトマトの優良品種として「ミニキャロル」を選定し、その品種特性を把握して栽培技術の一助とする。

研究の成果

「ミニキャロル」の特性

- (1) 果実の糖度は「サンチェリー」と同程度で高く、品質が優れる。
- (2) 着果数が多く、一果重がやや重く、裂果が少ないため、収量は供試した品種の中で最も多い。
- (3) ダブル果房の出現率は、1～5段果房で約30%、6～10段果房で約70%、11段以上の果房で約90%と高い。
- (4) 初期生育はやや旺盛で果実が大玉となるが、低温期となる生育中期以降は草勢が低下しやすい傾向がある。
- (5) TMVに対し抵抗性(Tm-2)を持つ。

栽培上の留意点

- (1) 定植は第1段花房の開花前から開花初めのやや若苗で行う。
- (2) 収穫開始後は草勢を低下させないように早めに追肥を行い、土壤の乾燥しやすいほ場では土壤水分が不足しないように灌水を行う。
- (3) 裂果防止のため灌水は収穫後に行い、夜温は10～12℃を確保する。

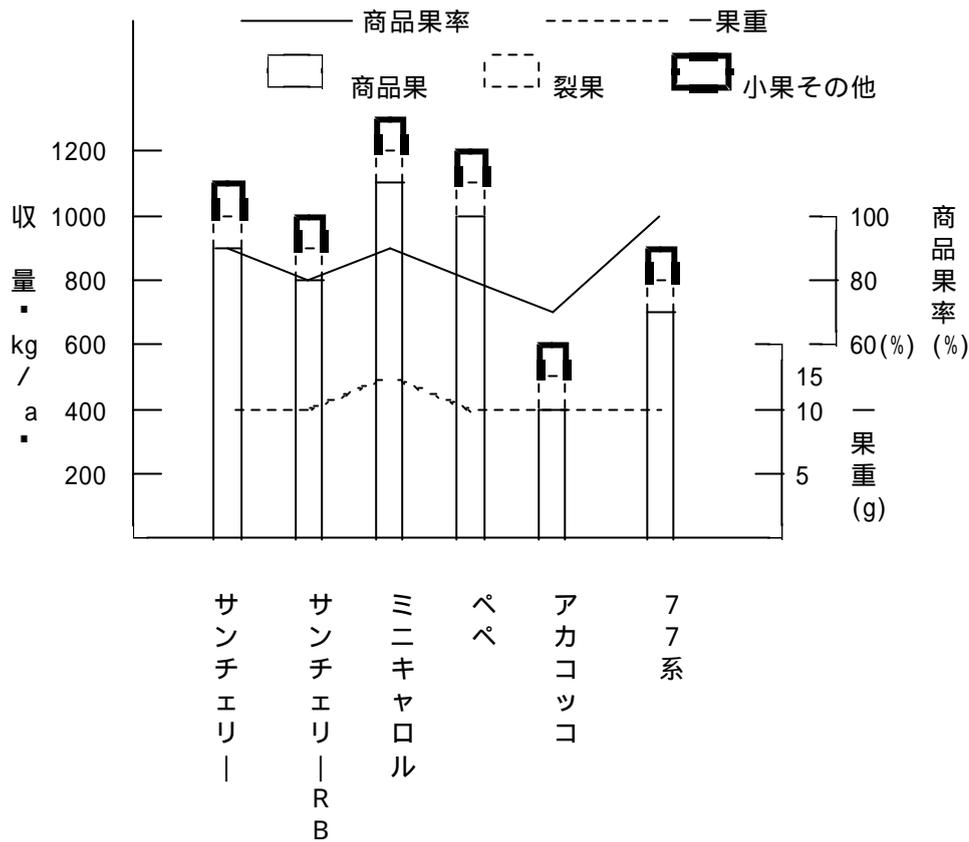


図1 品種比較 (天草農業研究所 昭和63年)

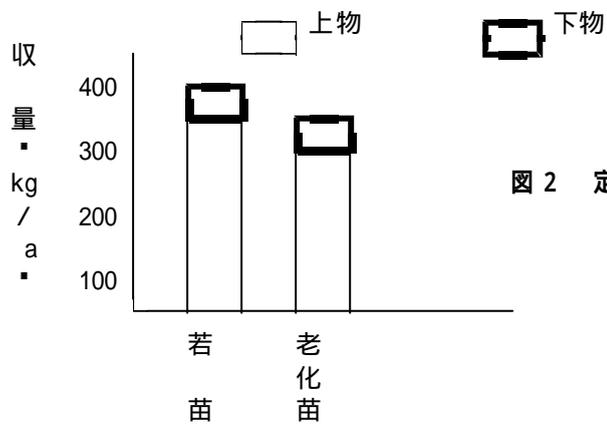


図2 定植苗令と収量 (野菜品種部 昭和63年)



写真 着果状況